

【犬山市教育大綱の見直しについての事前調査】

ま と め

大綱の該当箇所	委員の考え	回答者
1. 学びのまち 犬山をめざして	<ul style="list-style-type: none"> <li>●項目に追記、修正？</li> <li>・『個』に応じた親身な指導を充実し、多様な学びの機会をつくる！</li> <li>・犬山で培われた伝統・産業・文化を深く知り、「我がまち いぬやま」を誇りに思う心を育てる。</li> </ul>	渡邊委員
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「自ら学び続ける」</li> <li>→どうすれば！例えば脳科学から実現可能な訳、意欲につながるような文言で綴る</li> </ul>	木澤委員
2. 基本理念の 実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>●愛情の量という表現について</li> <li>→意味がわからない (図「家庭」内)</li> <li>●乳幼児から大人まで</li> <li>→大人ではなく高齢者(?)という表現の方が。 (図「市・教育委員会」内)</li> </ul>	堀委員
	<p>「家庭」家族・地域「町内」・「子ども未来園学校」児童、生徒、教職員同士のニーズの一斉調査をした上での、それぞれの思いにつなげることが必要かと、その後「市・教育委員会」市民の思い、希望をどう連動できるかに結ぶことで活力ある自主性を引き出し紡ぐとなるように、を考えます。</p>	木澤委員
3. 取組みの 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【学びと遊び】→【遊びと学び】</li> <li>「学ぶ」内</li> </ul>	堀委員
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●（学ぶ）</li> <li>「確かな学力を身につける」</li> <li>自分で課題を発見し、主体的・対話的に探究し、学びを深め、問題を解決する資質や能力を身につける。</li> <li>●（創る）</li> <li>「豊かな心を育む」</li> <li>自己肯定感を高め、自分・他者の命や自然を大切に する心や他を思いやる心を持つ。感性が豊かな子どもを創る。</li> </ul>	渡邊委員

大綱の該当箇所	委員の考え	回答者
	<p>●学ぶ ＝コロナ禍を体験し、学び方の多種多様を再検討することが究極ではと考えます。必然的なこれからのICTと同時に今までの読み、書きとの連動はどのように変化するか。</p> <p>●繋がる ＝多文化共生が云われ現在どれほどの進展があるでしょうか？ここしかない！の悲痛さから繋がる人、場所など増す必要性についてはどうなのか。</p>	木澤委員
その他	<p>●ICTの取組みをふやしてほしい</p> <p>●子供人権宣言（条例）等が出来ると良い</p> <p>●基本理念及び全体の表現に関して 行政は学びの主体ではなく、主体の環境を整備する主体です。行政の存在理由を考慮すれば、主体（市民）を支える、主体の環境を整備するという姿勢を示すような文章表現を工夫する必要がある。 「生涯にわたって自ら学び続ける」主体を支援する、「生涯にわたって自ら学び続け」られるような環境を整備することこそがあるべき理念ではないか。教育・福祉の分野で言われる「エンパワー」という概念がそれに当たると考える。 生涯にわたる主体的な学び（「学び」という言葉自体に主体的意味が入っているが）を促進する、励ます、支えるという趣旨や表現を込めていただきたい。</p> <p>●大綱作成の2つ目の目的の確認と意識化 教育は「人権中の人権」と言われるものであり、人間らしく生きるための基盤となるものである。大綱の主たる目的は、市民に行政の姿勢や活動を端的に示すことと考えるが、もう一つ、市民が人間らしく生きることが出来る街や社会を自分達が作り出すのだという公務労働の誇りや自負を、職員が感じたり確認するものとして策定されると良いのではないかと。</p> <p style="text-align: right;">次頁へ</p>	<p>奥村委員</p> <p>田中委員</p>

大綱の該当箇所	委員の考え	回答者
	<p>●重点的な観点</p> <p>(1) 権利、人権としての教育</p> <p>近年、不登校対策や制服・校則見直しなどを進めているところで、施策の継続性という観点からも、権利・人権がキーワードとして、これらを重点的に進める期間としてはどうか。</p> <p>また、「教育のまち」の名に相応しい子どもの権利条例策定に向けた活動も検討して良いのではないか。</p> <p>「自ら学び続ける…ひと」という理念に照らせば、一人ひとりを自ら考えて行動する責任主体たらしめるためにも、学校や行政が個人の自由を管理するという慣習に固執しない、日本で最先端の自治体となって欲しい。これは、国連やユネスコの掲げる理念にも対応するものであり、犬山の学校を国際標準の教育機関とすることにも繋がると考える。</p> <p>(2) 持続可能な教育環境の創出</p> <p>教育改革では、往々にして「やるべきこと」のみが強調され、「できるかどうか」という観点は捨象される。そして「やるべきこと」のみがキャパシティを超えて課され続けているため、現場で問題が起き、解消もされない。大綱の策定と同時に、教育的ニーズの充足という「やるべきこと」を確認するとともに、「できること」と「できないこと」を明確にし、「やるべきだができない」事象があれば、その原因は現場の改善で解消できるのか、行政の条件整備で解消できるのか、国の法制レベルに問題があるのか、といった総括をする機会としていただきたい。</p>	田中委員
	<p>●全体的</p> <p>・市民の意見を聴く場を設けていることは承知しておりますが、回答する市民は限られてはいないでしょうか？活動されている方は幾十にも活発な日々、そこでのお考えや発信は同じ顔ぶれになり、聞き取りも同回答になりがちではと感じられ、より多くの市民の考え、想いが年齢、収入、能力を問わず、ずっと住んでいたい愛着に繋がる大綱にできればと考える時間をいただきました。</p>	木澤委員